

平成21年度第2回技術講習会

工期や品質確保の観点から着工前に施工計画書を作成し、施主に提出することが求められますが、その施工計画書の作成手順、盛り込むべき内容について学習しようということから、第2回目の講習会は、「電気設備工事・施工計画」をテーマとし、今回も(社)日本電設工業協会（以下「日電協」という。）の人材確保・育成の補助メニューを活用して開催いたしました。

講習会は平成21年11月7日（土）午後1時30分から約3時間、兵庫県民会館303号室で行いました。また、講師は日電協の会員企業である栗原工業(株)大阪本店安全品質環境室品質管理課主任の亀山一久氏にお願いしました。

30名の定員に60数名の申し込みがあり、テーマに対する関心の高さが浮き彫りにされました。

テキストは日電協発行の「電気設備工事施工計画集成（平成16年6月）」が改訂中のため、講師が用意されたパワーポイントでの説明となりました。

講義内容は、まず総合計画書とはということで、①施工計画書の意義と必要性、②目的、③種類と内容の説明をいただいた後、総合計画書として①一般事項、②仮設計画、③機器搬入計画、④施工管理、⑤安全衛生計画、⑥検査計画、⑦引渡し計画について具体的な解説をいただきました。最後の工種別施工計画書では、①接地極埋設、②スリーブインサート工事、③配管工事、④ケーブルラック工事、⑤配線工事、⑥幹線延線工事、⑦金属線ぴ工事、⑧金属ダクト工事、⑨区画貫通処理、⑩機器取付工事、⑪架空配線工事、⑫地中配線工事について不具合事例の紹介と注意点についてアドバイスを受けました。

パワーポイントで、それぞれの重要な項目が要領よく整理されており、また、講師の経験を交えた実戦的な講習となり、参加者は最後まで熱心に受講されていました。



山口技術・安全委員委員長開会挨拶



亀山講師の講義